

課題番号	3	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・ 県単
研究課題名	外来種の防除に関する研究				
担当者名	丸山 哲也・矢野 幸広		研究期間	平成 22～26 年度	

目的

本県において侵入初期段階であると考えられるアライグマについて、監視手法と捕獲わなの実証試験を行うとともに、捕獲個体の繁殖状況等の分析を行い、捕獲対策の推進に資する。

方法

①監視手法の検討

ペットボトルを活用した誘引装置（齋藤 2013、図 1）を利用し、小山市及び野木町内の 4 カ所において、平成 25 年 5 月 23 日から 6 月 1 日（CN=25）の期間で各種餌を設置した上でセンサーカメラによりアライグマの反応を観察した。

使用した餌は、ピーナッツ、牛脂、コーン菓子、乾燥肉、いちご味のキャラメル、乾燥バナナ、煮干し、油揚げの 8 種類であった。



図 1. 誘引装置

②捕獲わなの検討

茨城県自然博物館の山崎氏らが考案した錯誤捕獲の軽減効果が高いわな（山崎・佐伯 2010）に改良を加え（図 2）、平成 26 年 7 月 16 日から 10 月 31 日（TN=107）までの捕獲試験を実施した。

使用したわなは、前足を器用に使い餌をつかむ習性がある種のみ、トリガーを作動させることができるタイプで、餌はパイプ内に設置した。



図 2. 改良した捕獲わな

③捕獲個体の分析

平成 22 年 7 月から平成 24 年 10 月までに捕獲された 22 個体のアライグマについて、消化管内容物から食性、子宮の胎盤痕、及び卵巣の黄体、白体の存否から繁殖状況、ボディマス指数（BIM）、皮下脂肪厚、大網重量、ライニー式腎脂肪指数（RKF_I）、大腿骨骨髓内脂肪含量（FMF）から栄養状態、歯及び頭蓋骨縫合線閉鎖状態から齢査定を行った。

結果概要

①監視手法の検討

4 カ所中 2 カ所でアライグマによる餌の摂取が確認された。摂取が確認された餌はいちご味のキャラメルであった。ネコやカラス等他の動物の接近が全ての箇所で見られたが、餌の摂取は確認されなかったことから、本手法は、安価にアライグマの生息を確認する手法として有効であると考えられた。

②捕獲わなの検討

野木町の野木神社に 4 基設置した。アライグマの接近が 7 月と 10 月にそれぞれ夜間に 1 日ずつ確認され、そのうち 10 月の確認時には体半分をわな内に侵入させた画像を得たが、捕獲には至らなかった。一方、ネコやハクビシンなどの錯誤捕獲も発生しなかった。

③捕獲個体の分析

剖検した個体は推定 0～3 歳までの若齢個体が多かった。栄養状態については、10 月～2 月に脂肪を蓄えていた。冬季捕獲個体は糞便中に草本類を認めるものがあり、食糧が少ない時期は、草食動物のように植物を食べて空腹を満たしていると思われた。なお、糞便中にはアライグマ回虫卵は認めなかった。

子宮のサンプルが得られたメス成獣 6 個体のうち、3 頭（小山市 2 頭、真岡市 1 頭）に胎盤痕が認められ、胎盤痕数は 2～4 であった。